

救急科 専門研修プログラム紹介

【特徴】

ER 型救急として 1 次から 3 次までの患者を受け入れています。2023 年度の救急搬送患者は 9,800 名、救急外来患者総数は 15,126 名であり、その数は年々増加しています。2024 年度は救急科スタッフ 4 名(女性医師 1 名)、後期研修医(他院プログラム)1 名が在籍しています。

2024 年度から新規に救急科専門研修プログラムを立ち上げました。大都市の ER ですので多彩な症例を経験できることは間違いありません。常にスタッフがバックアップしますので、経験した症例に対するフィードバックもその都度受けることができます。知識技術だけでなくプロフェッショナリズムやチーム医療など救急医にとって欠かせない能力も身につけることができます。

当院のプログラムは後期研修医の皆様と作り上げいくプログラムです。皆様のキャリアプランを話し合いながら自分にとっての最高のプログラムを作っていきましょう!!

●救命救急センターの活動が youtube で紹介されました! 是非ご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=tk7pB7QzUMg&t=803s>

【勤務・診療体制】

現在は救急科としての独自の勤務体制はなく、平日の日勤勤務が主な業務です。夜間・休日勤務は月 2-3 回ありますが、今後救急科の増員に伴って救急科独自のシフト勤務を予定しています。夜勤明けは申し送り後に帰宅可能です。

現在は 1 人が子育てとの両立を行っており、個々のワークライフバランスを大切にしていきます。

ER 勤務が主な業務ですが、薬物中毒やアナフィラキシー、保存的加療目的の外傷患者の一部などは救急科入院として入院診療も行っています。

また、救命救急センターに入院した重症患者は主治医と協力して循環・呼吸管理を行なっていますので、集中治療管理の基本を学ぶこともできます。

働き方改革の時代ですが、超過勤務は月 80 時間以内を全員クリアしています。

有給休暇も希望に応じて取得可能です。

【教育体制】

◎症例振り返り / 症例検討会

診療した患者を毎日振り返り指導医から feedback を受けます。また月 1 回程度初期研修医も含め、悩んだ症例や興味深い症例の検討会を行います。

◎ジャーナルクラブ

月 1 回テーマ毎に自ら文献をまとめ、発表する時間を予定しています。文献の読み方や文献検索方法なども学びます。

◎レクチャー / シミュレーション研修

月 1 回指導医からのレクチャーやシミュレーション研修を行います。知識や技術を確固たるものにすることができます。

◎多施設勉強会

月 1 回程度、他施設の救急医とともに感染症、中毒、整形外科疾患などについて合同勉強会を行います。他施設の仲間とも繋がることができます。

この他にも ICLS や JATEC、MCLS、FCCS など off-the-job training の受講も補助していきます。

【学術研究】

日本救急医学会や日本集中治療医学会など、救急・集中治療領域の多くの学会に積極的に参加しています。参加者には病院規定に則り金銭的な補助がでます。専門研修期間中に論文作成を行うことを目標に指導していきます。

救急・集中治療領域の書籍や商業誌への執筆機会もあるかも!?

【連携施設】

ER 研修(プレホスピタルを含む)だけでなく集中治療型研修や ICU 研修、地域医療研修、学術研修などができる施設と連携をとっています。また連携施設への研

修時期や研修期間は、専攻医の先生の希望や他の専攻医の勤務状況を総合的に判断しながら決定していきます。

【2024年度の連携施設】

- ・神戸市立医療センター中央市民病院
- ・兵庫県立尼崎総合医療センター
- ・兵庫県立災害医療センター
- ・京都大学医学部附属病院
- ・日本赤十字社和歌山医療センター
- ・田岡病院
- ・北野病院
- ・済生会野江病院
- ・東京ベイ・浦安市川医療センター(2025年度より連携予定)
- ・国際医療福祉大学成田病院(2025年度より連携予定)

このほかにも専攻医の希望に応じた研修内容が可能となるように、他施設と連携をとっていく予定です。

救命救急センターの雰囲気は facebook、instagram で適宜発信しております。ぜひご覧ください

- 救命救急センター facebook

<https://www.facebook.com/profile.php?id=61550219921541>

- 救命救急センター Instagram

https://www.instagram.com/osaka_red_cross_ER/